

今こそ知ろう！ “稀代の政治家” 田沼意次侯

田沼意次情報は
こちらから！



我が国の経済発展の礎を築いた改革者

江戸時代、幕府の老中を務め、遠州相良藩主として相良（現在の牧之原市）周辺を治めた田沼意次侯。

「田沼意次」の名を聞くと、“賄賂”のイメージが付きまといまいます。しかし、当時悪化していた幕府財政を立て直すべく、それまでの農業主義から、商業を重んじる政策への転換を図り、株仲間の奨励や外国との貿易拡大、さらには商業の発展に力を入れ、見事、財政復活を果たした立役者なのです。

相良藩においても、街道や港などのインフラ整備、製塩、養蚕をはじめとする殖産興業政策を行い、年貢を増やすことなく政治を安定させた“名君”でした。

2019年 田沼意次侯生誕300年



牧之原市史料館所蔵

田沼意次侯（1719～1788）

16歳の時に徳川家重の小姓となった田沼意次は、將軍に重用されて相良一万石を拝領し、宝暦8年に遠州相良藩主となりました。

その後、第10代將軍「家治」に築城を命じられ、明和4年から築城を開始、安永8年に完成させました。これにより、城下町として整備が行われ、「相良」と東海道の宿場町「藤枝」を結ぶ街道も整備されました。この街道は「田沼街道」と呼ばれ、現在でも多くの人々に利用されています。

意次侯の改革により幕府財政は復活しましたが、金銭中心の生活となった社会には、贈収賄が横行することになってしまい、松平定信ら反田沼勢力に領地を没収され、天明8年、失意のうちに70歳でこの世を去りました。

現代では、田沼意次侯が行った政治そのものが賄賂政治だと思われがちですが、優れた先見の明と創造力、政治的手腕のあった大政治家だったのです。

田沼意次侯の主な功績

一、予算制度の確立

「予算」という概念を初めて打ち立て、計画管理財政を実施し、將軍や大奥の出費を抑制しました。

一、通貨の統一

東日本では金、西日本では銀が通貨でしたが、金銀の相場に関係なく一定ルートで金と交換できる銀貨を造りました。

一、株仲間制度

農民からの年貢はそのままで、商人に流通税を課し、その見返りに流通の独占権を与え、商業の活性化を推進しました。

「白河の清きに魚も住みかねて もとの濁りの田沼恋しき」

「松平定信の政治は、潔癖で厳しすぎて庶民は住みにくい、もとの田沼意次侯の時代のほうが利権がらみであっても庶民は豊かだったから懐かしい」と田沼政治を懐かしんで詠まれた歌。

田沼家ゆかりの地をめぐる



1 牧之原市史料館

相良城本丸跡に建っており、意次侯ゆかりの品が多数収蔵されています。本丸跡の石碑もあります。



2 仙台河岸

相良城築城にあたり、仙台藩主伊達重村が寄進した石材で築かれた船着き場で、それにちなんで付けられた名称です。



3 陣代山

かつて沿岸部に沿って連なっていた丘陵部の一部です。意次侯は、地の利を活かした城下町づくりを進めたのかもしれませんが。



4 根上がり松

推定樹齢250年とされ、宝永4年（1707年）の大地震で津波が発生し、根元の土が洗い流され、現在のような形になったといわれます。



5 浄心寺

雨乞いの祈禱所として、田沼家の庇護を受けていました。山門には、市指定文化財の龍の彫刻があります。



6 百花稲荷

地元の御稲荷様に保存されている相良城の石垣には、城普請した家臣の名がうっすらと残されています。



7 大澤寺

本堂は、寛政3年（1791年）、相良城の木材を転用して建築されました。床下に痕跡が確認できます。



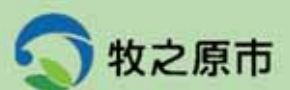
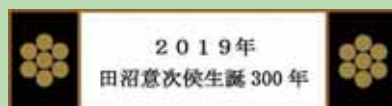
8 平田寺

本堂は、天明6年（1786年）、意次侯により再建されました。田沼家専用の玄関を備えています。



9 般若寺

本堂は江戸末期の建物です。堂内に、田沼家ゆかりの陣太鼓や相良城の杉戸を展示しています。



田沼意次侯生誕300年記念事業実行委員会（市観光課）
電話：0548-53-2623